

ストップ温暖化 「一村一品」大作戦 概要報告書

CO₂を、じぶんたちでへらそう。
そんな取り組みが、
全国からあつまりました。



あのエコ、
このエコ、
大集合。

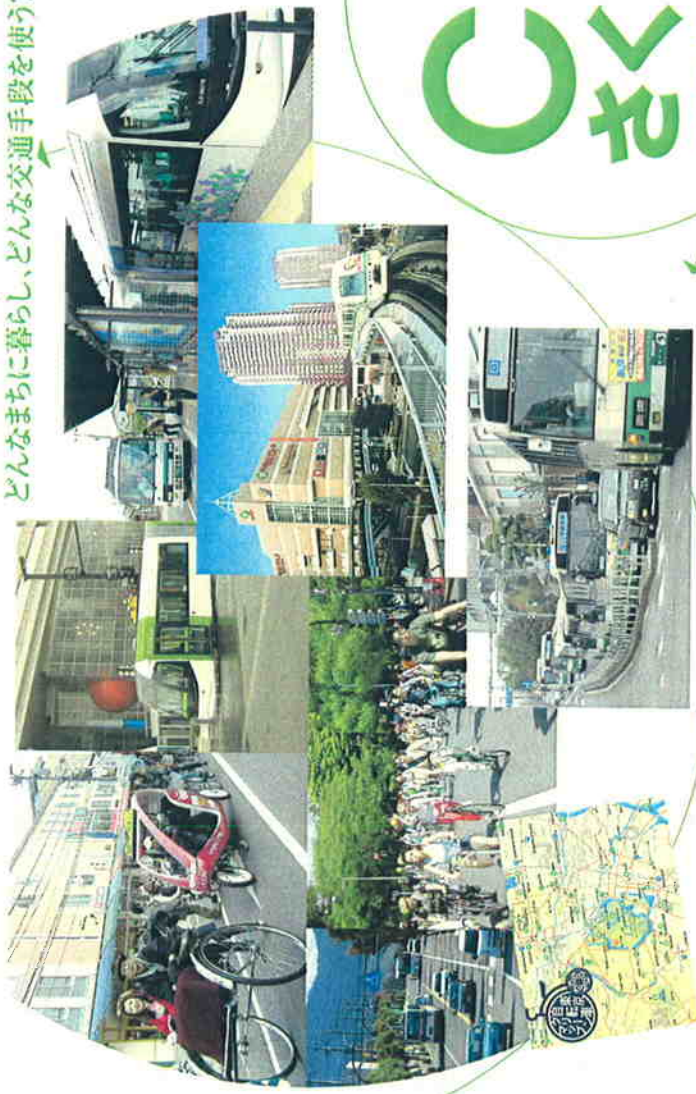
2008 報告書
平成19年度環境省委託事業

地域の力が、社会を変え

地域の創意工夫を活かした温暖化対策の「一品」を凝り起こす、ストップ温暖化大作戦〜CO2削減「一村一品プロジェクト」〜。
地域発のエニークなアイデアが、CO2排出量の少ない「低炭素社会」づくりを促します。

ストップ温暖化大作戦

どんなまちに暮らし、どんな交通手段を使う？



エネルギーは何を使う？



CO₂ さくげん

低炭素社会への取り組み

どんな住宅・森林・産業が必要？



環境意識をどう高める？



消費者はどう行動する？



「ストップ温暖化「一村一品」大作戦」全国大会 2008 の概要

1. ストップ温暖化「一村一品」大作戦について

環境省では、地域の創意工夫を活かした温暖化防止の取組を、地球温暖化防止活動推進センター等が中心となって各県ごとに募集し、県大会、全国大会を通じてそれらの取組を広く情報発信する事業を「ストップ温暖化『一村一品』大作戦」と題して展開。

事業初年度目の今年は、全国から 1074 件の取組がエントリー。各県大会を勝ち抜いた県代表が 2 月に実施された全国大会で一堂に会し、それぞれの取組を照会した。

同全国大会では、中島誠之助氏をはじめとした審査委員が、WEB による一般投票の結果を踏まえつつ、事前審査資料や各代表のプレゼンテーションを下に審査を実施し、最優秀賞（環境大臣賞）等を決定した。

2. 最優秀賞等各賞受賞取組

最優秀賞 受賞者：京都府代表 京都府立北桑田高等学校森林リサーチ科 取組：地元の木を使って「ウッドマイレージ」を減らそう！
金賞 受賞者：山梨県代表 都留市 取組：回れ！家中川小水力市民発電所「元気くん 1 号」！
銀賞 受賞者：富山県代表 富山市 取組：富山港線の LRT 化による公共交通活性化の取り組み
銅賞 北海道代表 受賞者：沼田町 取組：雪冷熱を地域資源として～輝け雪のまち、沼田町の取組～
特別賞（地域丸ごと連携賞） 受賞者：熊本県代表 水俣市 取組：地域全体丸ごと ISO～みなまた版 ISO の展開～
特別賞（地域循環賞） 受賞者：鹿児島県代表 大崎町 取組：「知恵の環（わ）ひとの環（わ）資源の環（わ）」ストップ温暖化プロジェクト
特別賞（エコ建築賞） 受賞者：山口県代表 株式会社安成工務店 取組：環境共生の家づくりを通じた地域循環・地域経済の両立

特別賞（環境都市賞） 受賞者：大分県代表 日田市 取組：「環境都市日本一」をめざす 大分県日田市の取り組み
特別賞（バイオマス賞） 受賞者：宮城県代表 塩釜市団地加工業協同組合 取組：エネルギーの地産地消で魚のまちは元気一杯
特別賞（地球の未来賞） 受賞者：青森県代 五戸町立南小学校 取組：京都議定書達成「南小プラン」のもと、地域に省エネ活動の輪を広げる！
特別賞（モーダルシフト賞） 受賞者：東京都代表 アーバンエコロジー東京 取組：東京都自転車グリーンマップ
審査委員長賞（森のエネルギー賞） 受賞者：岐阜県代表 東濃ひのき製品流通協同組合 取組：木を活かし地球を守るお手伝い
審査委員長賞（エコファイナンス賞） 受賞者：石川県代表 金沢信用金庫 取組：金融商品を通じての地域循環保全活動の推進
審査委員長賞（温泉エネルギー賞） 受賞者：栃木県代表 那須温泉地域温暖化対策地域協議会 取組：那須温泉地域 CO2 削減計画

3. 全都道府県代表の取組概要

別紙のとおり

あのエコ、このエコ、大集合。 ストップ温暖化「一村一品」大作戦

ストップ温暖化「一村一品」大作戦では、全国各地で 1074 件の取り組みが集まり、その中でも選りすぐりの一品が各都道府県代表として選ばれています。いずれも甲乙つけがたい取り組みですが、ここに 47 都道府県代表の一品（取組）をご紹介します。

1. 北海道「雪で、電気のいらない冷蔵庫。」

雪の冷蔵エネルギーで、ヒット商品ぞくぞく！人口 4,000 人の「雪のまち宣言」。

【団 体】沼田町

【タイトル】雪冷熱を地域資源として ～輝け雪のまち、沼田町の取り組み～

【活動概要】

北海道でも有数の豪雪地帯、沼田町では、雪の冷熱エネルギーを活用した世界初の施設「スノークールライスファクトリー」を建設。貯蔵された米を沼田産「雪中米」として出荷している。そのほか、公共施設への雪冷房導入や、雪冷熱を活用した農作物栽培、学校教育の中にも沼田町独自に「利雪学習」を採り入れ、子供たちに雪エネルギーを始めとする新エネルギー学習の場を設けています。地元温泉旅館でも「雪中そば」など地元の食材でふるまっています。



代表になれなかった取組でも・・・

北海道は「食」をテーマに一村一品を展開。地産地消やチーズづくりで廃棄物ホエーを有効利用したり、ハウス暖房で木質ペレットをつかった取り組みなどがありました。

【問い合わせ先】

北海道地球温暖化防止活動推進センター TEL 011-218-7811

http://www.heco-spc.or.jp/ippin/food_4.html#anchor

2. 青森県「エコの先生は、小学生。」

小学生が中心になって地域のエコ活動を推進。
大人たちを巻き込み、地域ぐるみの取り組みに。

【団 体】五戸町立南小学校

【タイトル】京都議定書達成「南小プラン」のもと、地域に省エネ活動の輪を広げる！

【活動概要】

南小学校の児童は、全学年がエネルギー環境問題について系統的に学習している。3・4年生は、親子で「ミニミニエネルギーサミット」を開催し、5・6年生は、地球に優しい新エネルギーについて学び、実際に風力と太陽光発電を行い電飾などに活用。さらに、京都議定書の目標（14%減）を達成するために、環境家計簿の記帳をすすめる「エコライフ出前講座」をこどもたちが地域に出向いて開催しています。2008年3月には、「地域子どもエネルギーサミット」を開催し、それぞれの地域に根ざした省エネ活動を広げていく予定です。



【問い合わせ先】

青森県地球温暖化防止活動推進センター TEL 0178-22-1507

<http://www.eco-aomori.jp/>

3. 岩手県「クルマよりも、自転車が似合う街。」

マイカー利用を自転車や公共交通機関にシフト。
街ぐるみの“減クルマ”活動で、CO₂削減。

【団 体】“減クルマ”でまちづくり実行委員会

【タイトル】どんと晴れ！自転車、徒歩、公共交通。“減クルマ”でまちづくり

【活動概要】

岩手県盛岡市において、市民団体を主体に、商店街、行政、交通事業者、交通専門家などで構成する実行委員会を組織し、“減クルマ”をキャッチフレーズに掲げた活動に取り組んでいます。活動のねらいは、クルマ利用を抑制することによるCO₂の排出削減など都市の環境改善とともに、環境にやさしいさまざまなアクセス手段を確保することでまちなかの活性化につなげること。平成19年は、国土交通省の制度を導入し、とくに自転車の利用を伸ばすことをめざしたエコ交通への転換を促すための社会実験に取り組んでいます。



【問い合わせ先】

岩手県地球温暖化防止活動推進センター TEL 019-606-1752

<http://www.aiina.jp/environment/>

4. 宮城県「かまぼこ揚げたら、クルマを動かせ。」

揚げかまぼこの廃油から、町のクルマが使うバイオ燃料を生産。

【団 体】塩釜市団地水産加工業協同組合

【タイトル】エネルギーの地産地消で魚のまちは元気一杯

【活動概要】

塩竈は水産練り製品生産高が日本一という地域特性を活かして、揚げかまぼこの生産過程から発生する大量の廃食用油を BDF 事業によって資源へと転換。BDF 製造プラントの建設や廃食用油の回収から BDF の製造・販売までの事業運営を行うほか、市民と一緒につくった地域協議会で普及啓発を展開。



代表になれなかった取組でも・・・

予選を通過した 20 団体からさらに 10 団体が優秀賞を受賞。

【問い合わせ先】

宮城県地球温暖化防止活動推進センター TEL 022-301-9145

http://www.melon.or.jp/melon/contents/Global_Warning/eco/index.htm

5. 秋田県「菜の花で、畑も地球も元気にしたい。」

休耕地に菜の花を。食べて、絞って、いろいろ使えて、バイオ燃料にもなる。

【団 体】秋田菜の花ネットワーク

【タイトル】「秋田流」菜の花多段階活用で農業・農村の活性化を！

ローテク・ローコストで小地域循環連携を！

【活動概要】

秋田県菜の花ネットワークは、農家や運送会社、行政、大学教授などが参加。菜の花を使った食用油、料理、飼料、バイオディーゼル燃料 (BDF) などを研究しています。県内菜の花作付面積は、転作作物として作付けが広がり、昨年の 80ha から今年では約 120ha までに拡大し、遊休地、耕作放棄地、休耕地を対象に地元農家の菜の花栽培に協力しています。菜の花の連作障害対策として、3年に1年はソバを植える「天ぷらそば」構想などもあります。



【問い合わせ先】

秋田県地球温暖化防止活動推進センター TEL 018-839-8309

<http://www.eco-akita.org/onsen/>

6. 山形県「ちょぺっとお得な、資源回収。」

消費者もお店も、ちょぺっと（少し）得する、
お買い物ポイント付資源回収プロジェクト「ちょぺっと」。

【団 体】 非営利組織 NPO-AMP

【タイトル】 中心商店街資源回収プロジェクト「ちょぺっと」

【活動概要】

「ちょぺっと」とは、山形の方言で「ほんの少し」という意味。商店街の資源回収店に資源を持ち込むと重量に応じてポイントを発行。100 ポイント（100 ちょぺっと）で 100 円分の買い物券として利用が可能です。利用客も、商店も、商店街も、自治体も、総じてみんなが「ちょぺっと」つつ得をすることで、地域の中に大きな流れを生み出し、地域全体からの CO₂ 排出量の抑止・温暖化対策に貢献しています。



【問い合わせ先】

山形県地球温暖化防止活動推進センター TEL 080-5577-3320
<http://eny.jp/>

7. 福島県「環境キャラクター「環太郎」、大人気！」

環境守り隊“チーム環太郎”の、地球温暖化防止啓発活動。

【団 体】 チーム環太郎（郡山市環境保全課）

【タイトル】 郡山の環境守り隊“チーム環太郎”（郡山市環境保全課）

【活動概要】

平成 19 年 6 月の環境月間に、“鮮烈な”デビューを飾った郡山市環境保全課キャラクター「郡山の環境守り隊 “チーム環太郎”」を活用した地球温暖化防止啓発活動を実施。出張講座「どこでも環境教室」や、家庭の省エネを進める「環境家計簿」など各種事業にてキャラクターを活用することで、より効果的な普及啓発を行っています。

さらに、こどもたちにもわかりやすく伝えるために、手話の振り付けつきエコソング「GO! GO! 環太郎」を製作。すべてボランティアと職員が知恵を出しあった手作りです。



【問い合わせ先】

福島県地球温暖化防止活動推進センター TEL 024-535-9522
<http://www.fukushima-ondanka.org/>